

疎外される子どもたち (The Many Faces of Exclusion)

End of Childhood Report 2018

概要

世界の子どもの半数以上にあたる 12 億人が、貧困、紛争、女の子に対する差別により、子ども時代を奪われてしまう脅威にさらされています。その脅威に直面している子どもたちの多くが、貧困、紛争、女の子に対する差別という 3 つの脅威のうち 2 つ、あるいは 3 つを同時に抱える国で暮らしています。1 億 5,300 万人もの子どもたちが 3 つすべての脅威を抱える国に暮らしており、子ども時代が奪われる深刻な脅威に直面しています¹。

セーブ・ザ・チルドレンは、国際子どもの日を記念し、子ども時代を奪い、彼らから自身の可能性を最大限に発揮する機会を奪う要因を掘り下げ、第 2 回目の「子ども時代が守られている国ランキング」として発表します。

昨年のデータと比較すると、175 ヶ国中 95 ヶ国で、子どもたちの状況が改善したことが明らかになりました。これは、公的支出や政策が子どもたちの現状を改善するために用いられたことを示す、喜ばしいニュースです。一方で、各指標の改善の速度は遅々としており、約 40 ヶ国では状況が著しく悪化しています。子ども時代を享受できない層は、最貧困状況で生きる子どもたち、また紛争の影響下にある子どもたちにますます集中する傾向にあります。また、このような現状は、ジェンダー差別を助長する傾向にあり、不利益な経験と共に女の子から子ども時代を奪う要因となっています。

レポートでは、子ども時代を奪う要因である、「死亡」、「栄養不良」、「教育を受けられないこと」、「児童労働」、「早すぎる結婚」、「早すぎる出産」、「激しい暴力の被害」など、子ども時代を終わらせる代表的な出来事について各国ごとに集計し、ランキングに

子ども時代を奪われる脅威に

直面している 12 億人の子どもたち¹

10 億人の子どもたちが、貧困にあえぐ国々で暮らしています²。貧困状態で暮らす子どもたちは、5 歳未満で死亡する、栄養不良によって発育が阻害される、学校に通うことができなくなる、児童労働を強制される、早すぎる結婚を強制される、子ども時代で出産するといった脅威に直面しています。(脅威 1)

2 億 4,000 万人の子どもが、紛争下の脆弱性の高い国々で暮らしています³。このような地域で暮らす子どもたちは、5 歳未満で死亡する、栄養不良によって発育が阻害される、学校に通うことができなくなる、児童労働を強制される、恐ろしく危険な状況下で自宅から避難することを強制されるといった脅威に直面しています。(脅威 2)

5 億 7,500 万人の女の子が、女の子への差別が特徴的な国々で暮らしています⁴。このような国で彼女たちは、5 歳未満で死亡する、教育から排除される、早すぎる結婚を強制される、精神的、身体的な準備が整う前に出産するといった脅威に直面しています。(脅威 3)

このような子どもたちは、「誰であるか」、「どこで生まれたか」によって子ども時代だけでなく、その将来までも奪われてしまう脅威を負っています。さらに、これら子どもたちに対する脅威は、国が発展するためのエネルギーや能力も奪ってしまいます。

しました。これら「子ども時代を奪う要因」は、貧困、紛争、ジェンダー差別が重なりあう劣悪な環境において最も蔓延しています。これら3つの脅威をすべて抱える20ヶ国が、いずれもランキングの最下位3分の1に位置することも偶然ではありません。そのうち10ヶ国は最下位20位以内に、また7ヶ国は最下位10位以内に位置しています。

子ども時代が奪われた状態は、特定の社会グループの子どもに対する意図的な計画あるいは無視の結果です。子どもが子ども時代を過ごせるかどうかは、大人から養育や保護を受けられるかどうかで決定づけられるからです。

子どもたちには、生きる権利、食料と栄養にアクセスする権利、健康への権利、そして住むところを得る権利があります。さらに、子どもたちには、公的にも家庭内でも将来の希望に向けて励ましを受け、教育を受ける権利があります。さらに、子どもたちには、暴力、虐待、搾取から保護され、恐怖を感じることなく生活を送る権利があります。

2015年、世界の指導者たちは国連に集い、2030年までにあらゆる形態の貧困をなくし、未来の世代のために地球を守るという確固たる約束をしました。打ち立てられた持続可能な開発目標(SDGs)は、すべての子どもたちが生き、学び、守られる権利、つまり「子ども時代を享受する権利」を保障するという、未来のあるべき姿を描き出しています。極めて重要なのは、この目標に合意した国々は、所得レベル、地理的位置、ジェンダー、アイデンティティなどに関わらず、すべての社会において子どもの権利の保障の達成を約束したことです。それだけではなく、彼らは社会から排除され、最も取り残された人々に最初に支援が届けられることを約束しました。

この「誰一人取り残さない」という約束は掲げ続けなければなりません。そうすることで初めて、世界中の何百万人もの子どもたちの人生を変えることを可能とし、彼らにふさわしい子ども時代を保障できるのです。

早急な対応を必要とする10の潮流

1. 紛争と迫害の結果、毎分20人が避難しており、世界では**現在記録上最も多くの避難民が発生しています**。2016年の終わりまでに、約2,800万人の子どもを含む、6,500万人の人々が自宅を離れ避難しています³。紛争地域で生活する子どもの数も、1990年初頭は10人に1人だったのに対し、2016年には6人に1人に増加しています⁴。
2. **18歳未満で結婚する女の子の人数は、2030年までに1億5,000万人に上ることが予測されています**⁵。世界的な進展はあったものの、2030年までに早すぎる結婚をなくすことができる地域はないとされています。どの地域も迅速な取り組みが必要ですが、1990年以来全く改善していないラテンアメリカ・カリブ地域は、早すぎる結婚の減少速度を大幅に加速しなければなりません。さらに、サハラ以南アフリカ地域では、人口増加のため、早すぎる結婚の減少率を2倍にしない限り、早く結婚する子どもは増加すると予想されます⁶。
3. **思春期の妊娠は増加傾向にあります**。少女たちの妊娠率は、ラテンアメリカ・カリブ地域を除くすべての地域で減少しているように見えますが⁷、思春期の若者の世界人口が増え続けているため、18歳未満で出産する女の子の数は、現在の780万人から2030

年には 880 万人に増加すると予測されます。とりわけ、西アフリカ及び中央アフリカ地域、東アフリカ及び南アフリカ地域は上昇の割合が最も高いとされています⁸。

4. **貧困層と富裕層の早すぎる結婚の割合の格差は、世界各国で拡大しています。** 貧困層の女の子と富裕層の女の子のうち、子ども時代に結婚する女の子の割合の格差は、この 20 年間で 2 倍になりました。貧困層の女の子が結婚する割合は、1990 年には富裕層の 2 倍(貧困層 39%、富裕層 19%)でしたが、現在は 4 倍(貧困層 41%、富裕層 10%)に達しています⁹。
5. **貧困層と富裕層の発育阻害の割合の格差は、ほとんどの低所得国で拡大しています。** 2000 年前後と 2014 年前後の比較可能なデータが存在する低所得国 27 ヶ国のうち、下位 20%の所得層と上位 20%の所得層の 5 歳未満児の栄養不良の割合の差が改善していない、あるいは増加した国は 24 ヶ国でした¹⁰。
6. **サハラ以南アフリカ地域の発育阻害の子どもの割合は減少しているものの、絶対数は増加しています。** 発育阻害の子どもの人数が、2000 年の 2,290 万人から 2016 年には 2,810 万人に増加した西アフリカ及び中央アフリカ地域は、特に大きな負荷を負っています¹¹。各地での発育阻害の子どもの割合は着実に減少していますが、SDGs の栄養目標を達成する見込みがある国は多くありません¹²。こうした不十分な進捗状況が世界的に続く場合、2025 年の発育阻害の子どもの数は、1 億 3,000 万人に上ることが予想され(目標数は 9,900 万人)、その半数以上をサハラ以南アフリカ地域が占めることとなります(現状では 3 分の 1 がサハラ以南アフリカ地域)¹³。
7. **南アジアとサハラ以南アフリカ地域では、子どもたちに対する支援活動の成果はより裕福な子どもたちに反映される傾向にあるため、富裕層の子どもと貧困層の子どもの生存率の格差は拡大しました。** 他の地域では、支援の成果が貧困層に表れていますが、どの国も 2030 年までに貧困層と富裕層の子どもの死亡率の格差を埋める見通しはたっており、2050 年まで経っても 5 歳未満児の死亡率の均衡を達成できる国はほとんどありません¹⁴。2000 年以降、死亡率の低下には目を見張る進捗がありました。現在の削減ペースが維持されても、2030 年までに 6000 万人以上の 5 歳未満児が予防可能な原因を主として命を落とし、その約半数は新生児となることが予測されます¹⁵。
8. **すべての子どもが初等、中等教育の全課程を受けることを保証する取り組みは減速しました。** 教育を受けられない子どもの人数は、2000 年からの 10 年間で順調に減少しましたが、近年その減少率は低迷しています。教育を受けられない子どもが多い地域では、人口が上昇しているため、現在(2 億 6,300 万人)と比較しても、2030 年時点で就学できない子どもたちの数に大きな改善は見られないでしょう¹⁶。さらに、世界の子どもと若者の 6 割にあたる 6 億 1,700 万人は、学校には通っていても文字が読めない、基礎的な算数ができないなど、学習が出来ていない状態です¹⁷。
9. **サハラ以南アフリカ地域の教育システムは、人口の増加に追い付くことができていません。** この地域では、人口の増加に伴い、非就学率の減少は低迷しており、学校に通えない子どもの人数は過去 5 年間で増加し続けています。その結果、世界の学校に通えない子どものうち、サハラ以南アフリカ地域に暮らす子どもが占める割合は、2000 年の 24%から 37%に増加しました¹⁸。
10. **サハラ以南アフリカ地域では、児童労働に従事する子どもの割合が増加しています。** 2012 年から 2016 年にかけて、その他の地域では減少しているにも関わらず、同地域の児童労働に従事する子どもの割合は、21%から 22%に上昇しました。この地域は、児童

労働の脅威を高める要因である、紛争と貧困の影響が色濃い地域の一つでもあります

19。

子ども時代を評価する指標

- 2017年と2018年の比較

セーブ・ザ・チルドレンによる第2回目の発表となる「子ども時代が守られている国ランキング」は、175ヶ国の最新のデータを比較し、子ども時代が守られているかどうかを評価しています。シンガポールとスロベニアが987ポイントで1位に並びました。その他西ヨーロッパ7ヶ国が、保健、教育、子どもの保護の分野で高い評価を得て上位10ヶ国に入っています。調査対象国のうち、最下位は388ポイントのニジェールでした。

最下位10ヶ国中8ヶ国が西アフリカ及び中央アフリカ地域の国々であり、これらの国は最上位の国とは対称的にほとんどの指標が低い数値となっています。これらの国々では、精神的、社会的、身体的発達や遊ぶことに捧げられるべきである子ども時代を十分に享受できる可能性が極めて低い状況です。これらの国々を筆頭に、多くの国の子どもたちが子ども時代の大部分を奪われています。

経済力、軍事力、科学技術の成熟度、そして世界への影響力の観点から、アメリカ合衆国、ロシア

ア、中国は世界で最も力を持つ3ヶ国であると言えますが、子どもたちが最大限のポテンシャルを発揮するための環境を提供することにおいては、西ヨーロッパ諸国のほとんどの国に及びません。アメリカ合衆国は36位、ロシアは37位、中国は40位の評価を受けています。それぞれのスコアは、945ポイント、944ポイント、939ポイントで、ほとんどの西ヨーロッパ諸国と比較して最低でも30ポイント以上低い数値となっています(ただし、中国は1980年以降大幅な状況の改善を達成しています)。

貧困、紛争、ジェンダー差別に向き合う各国の姿勢は、順位を決定づけるうえで、大きな影響を及ぼします²⁰。この3つの脅威は、私たちがランク付けに用いた8つの指標である「子ども時代を奪う要因」の存在や深刻度に多大な影響を及ぼしているからです。実際、最下位3分の1に位置する国の90%近くがこれらの脅威のうち最低1つに直面している一方、最上位3分の1の国でこれらの脅威を抱える国は10%に満たないという状況です。

一方、昨年のスコアと比較すると、安定した子ども時代を十分に過ごすことができる環境づくりに向けて95ヶ国が改善したことが明らかになりました。多くの比較的所得が低い国で改善が見られたことは、国家の予算規模に関わらず、政治的判断によって現状を改善することができることを示しています。しかし、19ヶ国のスコアは昨年と変わらず、58ヶ国はより低いスコアを記録しました(そのうち42ヶ国では2ポイント以上低下)²¹。

スコアが表しているものは？

「子ども時代が守られている国ランキング」における各国のスコアは、1から1000ポイントまでのスコアで測られます。より高いスコアを有する国は、子ども時代がより守られていることを表します。スコアは、各国の子どもたちが、死亡、慢性的な栄養不良、学校に通えないこと、労働、結婚、出産といった大人の役割を強制的に押しつけられることなど、子ども時代に終止符を打つ要因にどの程度晒されているかを数値化しています。以下は、各国のスコアを解釈するための簡単な指針です：

940ポイント以上—子ども時代が守られていない子どもは少数

760~939ポイント—子ども時代が守られていない子どももいる

600~759ポイント—多くの子どもの子ども時代が守られていない

380~599—ほとんどの子どもの子ども時代が守られていない

379ポイント以下—ほぼすべての子どもの子ども時代が守られていない

- **サハラ以南アフリカ地域**では、49ヶ国中25ヶ国(51%)でスコアが改善しました。特に、ウガンダは子どもの栄養不良を改善したことを主な理由とし、スコアが681から701ポイントと20ポイント上昇しました。ソマリアは、今回のスコアは昨年の470ポイントよりも13ポイント高い483ポイントで、過去数十年の停滞と衰退から回復している可能性があります。2年連続最もスコアが低かったニジェールでも、384ポイントから388ポイントに4ポイント増加し、この最貧困国の状況が改善に向かっている兆しを見せました。しかし、栄養不良と児童労働の割合が増加したナイジェリアは、昨年の578ポイントよりも65ポイントも低い513ポイントを記録し、この地域で最も大きくスコアを落としました。さらに、リベリアは子どもの就学率が低下したことによって、スコアも681ポイントから631ポイントに下がりました。
- **南アジア**では、8ヶ国中4ヶ国でスコアが改善しました。バングラデシュは、主に子どもの就学率が改善したことから、スコアが680ポイントから701ポイントへ21ポイント上昇しました。インドでも早すぎる結婚の割合が低下したことによって、昨年の754ポイントから14ポイント高い768ポイントを記録しました。一方で、早すぎる結婚の割合が増加したネパールは、680ポイントから677ポイントへ3ポイントスコアを下げました。アフガニスタンは、紛争による避難と子どもの就学率の低下によって、602ポイントから592ポイントへ10ポイント減となりました。
- **東アジア・太平洋地域**では、21ヶ国中16ヶ国(76%)でスコアが改善しました。中国は、就学率と子どもの栄養状態の改善を主な理由とし、昨年の928ポイントから11ポイント上昇し、939ポイントでした。タイは主に栄養の改善を理由とし、昨年の852ポイントから863ポイントへ11ポイント上昇しました。しかし、フィリピンでは、発育阻害の割合が増加したことによって、昨年の807ポイントよりも8ポイント低い799ポイントを記録しました。
- **中東・北アフリカ地域**では、スコアが改善した国は半分以下の17ヶ国中8ヶ国でした。スーダンでは、避難している子どもの数の減少、子どもの健康の改善、就学率の増加によって、昨年の639ポイントから28ポイント上昇し、667ポイントでした。一方、紛争が子どもの健康、教育、安全に悪影響を及ぼしているシリアとイエメンでは、昨年と比較してそれぞれ12ポイントと5ポイント(シリア：668ポイントから656ポイント、イエメン：653ポイントから648ポイント)下がりました。カタールでは、子どもの就学率が低下したことが主な原因となり、昨年の947ポイントよりも8ポイント低い939ポイントでした。
- **ラテンアメリカ・カリブ地域**では、60%の国(28ヶ国中17ヶ国)でスコアが改善しました。ペルーの30ポイント、エルサルバドルの24ポイントの増加は、子どもを児童労働から守る取り組みが進展したこと起因しています。結果、ペルーは788ポイントから818ポイント、エルサルバドルは723ポイントから747ポイントに上昇しました。この地域では、800ポイントから792ポイントに下がったパナマと、724ポイントから716ポイントを下げたベネズエラの8ポイントが最も大きな減少でした。パナマでは、昨年よりも子どもの就学率が低下しています。ベネズエラでは、子どもの就学率の低下が主な原因として考えられますが、子どもの死亡率、児童労働者数の割合、避難民の人口割合もそれぞれ増加しています。
- **中央・東ヨーロッパ及び独立国家共同体**では、21ヶ国中11ヶ国(52%)でスコアが改善しました。ジョージアは、児童労働を削減した結果、851ポイントから36ポイント高い887ポイントに上昇しました。ウズベキスタンは、児童労働と子どもの死亡率が減少したため、862ポイントから884ポイントへ22ポイント上昇しました。就学率が向上したキルギスは、816ポイントから9ポイント上昇し、825ポイントでした。マケドニア

は、子どもの死亡率が上昇し、就学率が低下したことから、910ポイントから10ポイント低い900ポイントでした。

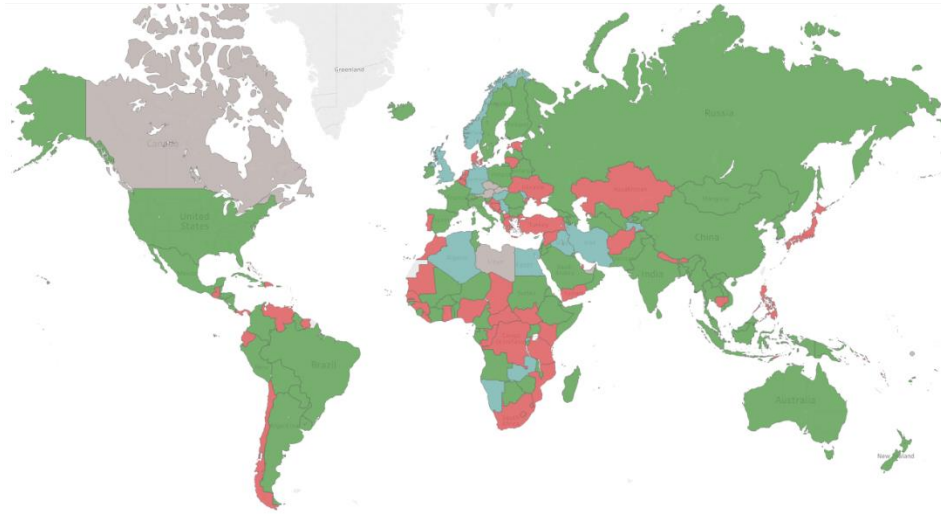
- **先進国**の多くは、スコアがほとんど変動しませんでした(スコアの増減が2ポイント以下だった国は30ヶ国中25ヶ国)。最も大きく変動したのは、マルタ(953ポイントから8ポイント増加し961ポイント)とラトビア(956ポイントから7ポイント増加し963ポイント)でした。スウェーデンは、982ポイントから985ポイントへ3ポイント上昇し、ノルウェーと並んで第3位でした。

全体として、「子ども時代が守られている国ランキング」のために集められたデータは、富裕国と貧困国の極めて大きな格差を浮き彫りにし、最も脆弱な立場に置かれた子どもたちの現状を早急に改善することの必要性を明らかにしました。これらのデータが意味するものは単なる数値だけではありません。これらの数値は子どもたちの絶望や失われた機会を表しており、すべての子どもたちに生存と発達のための基礎的なサービス提供や、保護や機会が保障されることの重要性を訴えています。

子ども時代が守られている国ランキング 2018

上位 10 か国		下位 10 か国	
ランク	国名	ランク	国名
1	シンガポール	166	コンゴ民主共和国
1	スロヴェニア	167	シエラレオネ
3	ノルウェー	168	ギニア
3	スウェーデン	169	ナイジェリア
5	フィンランド	170	ソマリア
6	アイルランド	171	南スーダン
6	オランダ	172	チャド
8	アイスランド	173	中央アフリカ
8	イタリア	174	マリ
8	韓国	175	ニジェール

子どもたちの状況は、多くの国で改善しました



■ スコアが上昇 ■ スコアに変化なし ■ スコアが低下 ■ データなし

昨年のスコアと比較すると、子どもたちの状況は 95 ヶ国で改善し、58 ヶ国で悪化しました。どの地域においてもスコアが悪化した国はありますが、悪化傾向は、特にサハラ以南アフリカと南アジア地域の一部に偏って集中しています。

インドの課題に立ち向かう



コルカタで行われている早すぎる結婚防止キャンペーンに参加し、成果を上げているアニカさん(12)

アニカさんは、セーブ・ザ・チルドレンの移動式学習センターに3年間通っています。それ以前の彼女の人生は非常に混乱しており、彼女は学校に通うことができていませんでした。彼女の母親は家族のもとを去り、性産業で働いていました。そのため、アニカさんの家族は母親の実家から離れなければならず、アニカさんと妹は掃除、洗濯、料理を全て自分たちで行っていました。

このような状況のアニカさんを学習センターのメンバーが見つかり、彼女にセンターを訪れるよう説得しました。彼女が1年間センターに通ったあと、学習センターのメンバーは、彼女の父親に彼女を学校に戻すよう説得し、入学の手続きを支援しました。学校が大好きなアニカさんは、学校から出される宿題の手助けを得るために、今もセンターに通っています。彼女が一番好きな科目は科学で、将来は科学の先生になることを夢見ています。

アニカさんは、セーブ・ザ・チルドレンによって設立された子どもの権利のためのキャンペーン活動を行う子どもグループの一員でもあります。彼女は早すぎる結婚の防止のために活動しています。早すぎる結婚が予定されていると知ると、彼女とグループのメンバーの子どもたちが結婚を計画している両親や当人たちを訪問します。彼女たちは、早すぎる結婚の脅威を説明し、女の子には彼女が持っている権利について啓発します。最近アニカさんは、友人の姉妹の早すぎる結婚を中止させることに成功し、彼女はそのことをとても誇りに思っています。

<注釈>

¹子ども時代を奪われる脅威に直面している子どもは、12億人に上ると予測されています。この数字は、紛争国/脆弱国、貧困が蔓延する国に暮らす子どもに加えて、女の子に対する差別を抱える国（貧困や紛争がなくても）に暮らす女の子も含めています。これらの脅威を二つ以上抱える、子ども時代が奪われる可能性が極めて高い国で暮らす5億3,700万人の子どもたちも同様の考え方を適用しています(男の子は、女の子に対する差別とその他の1つの脅威に直面している国ではカウントせず、貧困と紛争の両方に直面している国でのみカウント)。しかし、3つすべての脅威を抱える国に住む「究極の脅威」に直面する1億5,300万人の子どもたちの数には、男女両方を含みます。より詳しい内容は「調査方法と研究」のセクションを参照。

²子どもの権利条約は、「子ども時代」の国際的な定義を示しています。子ども時代は、大人時代とは分けて考えられ、子ども特有の権利を有する期間を指します。この報告書は、子どもの権利条約で約束された子ども時代を、世界の何億人もの子どもたちが享受できていないことを浮き彫りにしています。「子ども時代」を定義する「子どもの権利条約」については；UNICEF State of the World's Children 2005 参照

³UNHCR. Figures at a Glance. www.unhcr.org/en-us/figures-at-a-glance.html (accessed 24 March 2018) and UNICEF. Children on the Move: Key Facts and Figures. (New York: 2018)

⁴Save the Children. The War on Children: Time to End Grave Violations Against Children in Conflict. 2018

⁵UNICEF. "25 million child marriages prevented in last decade due to accelerated progress, according to new UNICEF estimates" <www.unicef.org/media/media_102735.html> 6 March 2018

⁶UNICEF. Progress for Every Child in the SDG Era. (New York: 2018)

⁷2013年の研究によると、15歳未満の女の子の出産率が近年増加したのは、ラテンアメリカ・カリブ地域だけでした。この地域では、2030年までにさらに増加することが予測されています。出典；UNFPA. Motherhood in Childhood: Facing the Challenge of Adolescent Pregnancy. (New York: 2013)

⁸UNFPA. *Adolescent Pregnancy: A Review of the Evidence*. (New York: 2013)

⁹UNICEF. *Progress for Every Child in the SDG Era*. (New York: 2018) and UNICEF. *Progress for Children: Beyond Averages – Learning from the MDGs*. (New York: 2015)

¹⁰UNICEF <data.unicef.org/topic/nutrition/malnutrition/#> (accessed 24 March 2018) and UNICEF. *Progress for Children: Beyond Averages – Learning from the MDGs*. (New York: 2015)

¹¹UNICEF <data.unicef.org/topic/nutrition/malnutrition/#> Accessed 24 March 2018.

¹²Osgood-Zimmerman, A et al. "Mapping Child Growth Failure in Africa Between 2000 and 2015." *Nature* volume 555, pages 41–47 (01 March 2018) doi:10.1038/nature25760. See also: UNICEF. *Progress for Every Child in the SDG Era*. (New York: 2018)

¹³UNICEF. *Progress for Every Child in the SDG Era*. (New York: 2018)

¹⁴UNICEF. *Committing to Child Survival: A Promise Renewed. Progress Report 2015*. (New York: 2015)

¹⁵UNIGME. *Levels & Trends in Child Mortality: Report 2017*. (UNICEF: 2017)

¹⁶UNESCO Institute for Statistics (UIS). "One in Five Children, Adolescents and Youth is Out of School." UIS Fact Sheet No.48. (Montreal: 2018) and UNICEF. *Progress for Children: Beyond Averages – Learning from the MDGs*. (New York: 2015)

¹⁷UNESCO. *More Than One-Half of Children and Adolescents Are Not Learning Worldwide*. UIS Fact Sheet No. 46. (Montreal: 2017)

¹⁸Save the Children's analysis of data from UNESCO Institute for Statistics database <UIS.Stat>, Accessed 24 March 2018.

¹⁹ILO. *Global Estimates of Child Labour: Results and Trends, 2012-2016*. (Geneva: 2017)

²⁰この報告書で挙げている3つの排除の形態に加えて、子ども時代を奪う指標は、地理的位置(都市/地方)、年齢、人種/民族、より狭い範囲での地域、宗教、障害など、不平等のその他の側面に細分化することができます。最も子ども時代が守られていない子どもたちが、このような社会層に所属していることは多々あります。この報告書でカ

バーされていない、その他の排除されている社会層については ; *Save the Children. Every Last Child: The Children the World Chooses to Forget.* (London: 2016) 参照

²¹ この分析のための十分なデータ(2年分の子ども時代を奪う要因の指標となるデータ)が存在した国は、ランク付けされた175ヶ国中172ヶ国でした。データが存在しなかった、バーレーン、カナダ、アラブ首長国連邦の3ヶ国は今年からランキングに加わりました。

疎外される子どもたち (The Many Faces of Exclusion) -End of Childhood Report 2018-

日本語版概要発行：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2018年発行